

令和 8 年度 第 1 回 「淡路島観光戦略会議」 議事要旨

日時：令和 8 年 6 月 23 日（火） 10:30~11:40

場所：洲本総合庁舎 3 階会議室 A・B

出席者：淡路県民局長、洲本市長、南あわじ市長
淡路市長、淡路島観光協会会長

議題（１）令和 7 年度 淡路島総合観光戦略アクションプランの
取組実績と課題について

（２）令和 8 年度 淡路島総合観光戦略アクションプランの
取組について

（３）淡路島アートフェスティバル（仮称）について

（４）その他

事務局から議事（１）（２）について、資料 1-1、1-2、1-3、2-1、
2-2、3 に基づき説明

①KPI の達成度について

【構成員】

- ・ 「観光客の満足度」について、数値的にあまり良くない背景はなにかあるか。

【構成員】

- ・ 「観光客の満足度」について、全項目平均 74.0%とあるが、7 項目のうち良い項目、悪い項目は何があるのか。
「住民理解度」の数値について、他の地域と比較してどうなのか。

【事務局】

- ・ 7 項目のうち「体験・アクティビティ」が満足度が最も低い数値になっている。「地域への再訪意向」は 98.5%と高い数値である。それ以外の項目については、おおよそ 60%代から 80%代になっている。
- ・ 「住民理解度」の項目については、淡路地域に特化したアンケートからとった指標のため、他の地域とデータはない。

【構成員】

- ・ 「観光客の満足度」の向上には、ユニバーサルツーリズムの推進が有効だと思われる。現在そういった取組はあるのか。

【事務局】

- ・ 県主導で「ひょうごユニバーサルなお宿」宣言・登録制度の中で、ユニバーサルツーリズムの推進に積極的に取り組むことを宣言した宿泊施設を対象に施設改修等に対して補助金を出して、支援する取組を実施している。

【構成員】

- ・ 高齢者や障がいのある人など、誰でも安心して旅行できるよう支援するユニバーサルツーリズムセンターが淡路島にはないので、設置に向けて進めていただきたい。

【構成員】

- ・ ユニバーサルツーリズムについては、事業者としては重要なポイントであると考えている。少子高齢化社会において、家族のイベントを大切にするという考えや、遠方の旅行に行きづらくなった方が安心して旅行できる環境を整備することが今後取り組んでいかなければならない。

【構成員】

- ・ 「観光客の消費単価」について、昨今の物価上昇の影響も受けていると思うので、観光戦略の最終年度の振り返りの中で、よく分析していただきたい。

【事務局】

- ・ 消費単価の指標は、観光による地域経済の循環を図るうえで、重要な指標であると考えている。次回の観光戦略改訂の際には、現戦略の指標の振り返りと分析をした上で、指標を定めていきたい。

【構成員】

- ・ 「観光客の消費単価」について、宿泊費や飲食費などの内訳は。

【事務局】

- ・ 宿泊の消費単価 4.9 万円に対して、宿泊費が 2.1 万円、飲食費が 1.2 万円、土産物が 0.6 万円、ほかは交通費、体験料等となっている。

【構成員】

- ・ 地域活性化のために観光を進めるにあたり、「住民理解度」を高めることが大切。観光で整備したことが住民の方々にも恩恵があることを広報していく必要がある。
島内の重点エリアを整備することで、街が綺麗になり、住民の満足度にも繋がる。

②アメニティ戦略について

【構成員】

- ・ 今年の4月から神戸空港⇒淡路島行き的高速バス便数が15便に増便されたことや、今年の秋には神戸空港国際便が70便に増便予定であることについて、利用者が増えるように、また、さらに増便していただくために広報していくことが大切。
2028年にはバスタ神戸三宮が完成するので、それに合わせ、島内の高速バス停を乗り降りしやすいよう整備すること、また、そこから次の行先までアクセスしやすいよう2次交通の整備が必要になる。

事務局から議事（3）について、資料4に基づき説明

以降、意見交換を実施

以上